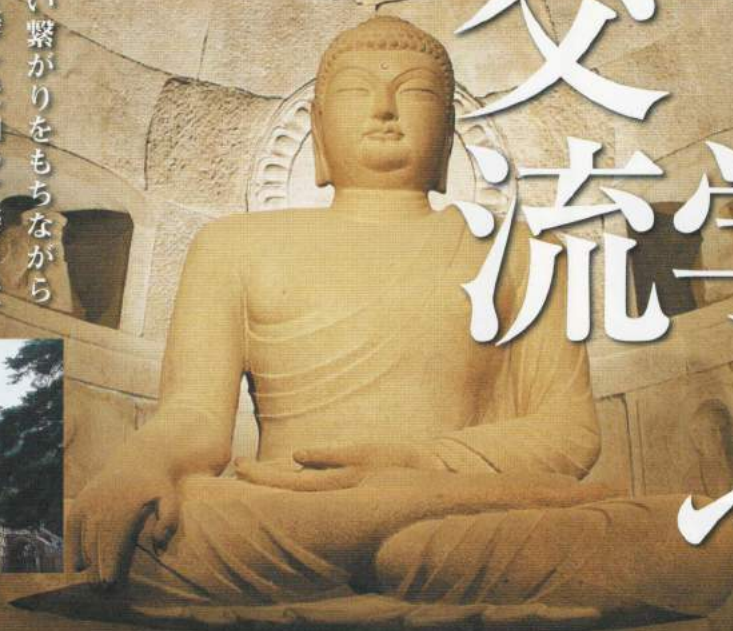


世界遺産を 通して学ぶ 日韓交流

古代より、朝鮮半島と九州・日本は深い繋がりをもちながら歴史を刻んできました。世界遺産を目で楽しみ、知って楽しみ、そこから見える交流の跡と人の心を学びます。講師は全編を通して、東アジア考古学を専門とされる西谷正先生です。韓国の発掘調査にも数多く携わってこられ、世界遺産にも精通する西谷先生に、ご自身が撮りためてこられた貴重な写真とともに解説いただきます。



シリーズ講座
全6回

- 第1回 2014/7/12(土) 「高敞・和順・江華の支石墓群跡」と弥生文化の成立
- 第2回 2014/8/2(土) 「高句麗古墳群」と日本の装飾・壁画古墳
- 第3回 2014/8/21(木) 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」と海の道
- 第4回 2014/10/4(土) 「慶州歴史地域」と古代の日本
- 第5回 2014/10/18(土) 「開城歴史遺跡地区」と中世の日本
- 第6回 2014/11/8(土) 「朝鮮王朝の王墓群」と近世の日本

会場 パレスサイドビル2F(東コア)マイナビルームS
 定員 各回130名
 料金 1講座2,000円 (お得意な6回通しチケット10,500円もご用意しています)

詳しくは4Pをご覧ください

講師 西谷 正氏
(にしたにただし)



1938年、大阪府生まれ。京都大学大学院修了。専門は東アジア考古学。奈良国立文化財研究所、福岡県教育庁、九州大学教授、韓国伝統文化大学外国人教授などを経て、現在、海の道むなかた館長・九州歴史資料館名誉館長・伊都国歴史博物館名誉館長・九州大学名誉教授。元日本考古学協会会長。文化庁や世界遺産関係の役職多数。

第1回

7月12日(土)
10:00~12:00

※この回のみ午前

「高敞・和順・江華の支石墓群跡」と 弥生文化の成立

支石墓は、日本では北部九州が中心、特に伊都国(糸島市)から末盧国(唐津市)に集中分布しています。弥生時代の、渡来人による技術移転や文化の流入を知ることができる貴重な遺跡です。迫力ある韓国の支石墓群とともに、九州の典型的な南方式支石墓もご紹介します。



江華島の支石墓。足が高い北方式

第2回

8月2日(土)
14:00~16:00

「高句麗古墳群」と 日本の装飾・壁画古墳

有名な「江西大墓の四神図」も高句麗古墳群のひとつです。奈良のキトラ古墳の朱雀や、九州・竹原古墳の玄武の絵との類似性も注目されています。九州は日本の装飾古墳の7割が集中していますが、小さいながら高句麗とのつながりを思わせる古墳もあり、それらもご紹介したいと思います。



ピョンヤン近郊の安岳3号墳内部の壁画

第3回

8月21日(木)
14:00~16:00

※この回のみ木曜日

「宗像・沖ノ島と 関連遺産群」と海の道

玄界灘は古くから大陸との交流の舞台となり、そこに浮かぶ沖ノ島は神が宿る島として信仰されました。神話にも三女神が登場し、今も女人禁制はじめ固く禁忌が守られています。韓国・西海岸の竹幕洞でも良く似た祭祀遺物が出ています。海を介した当時の交流や祭祀についてお話しします。



(上・左・右) 金銅製龍頭、金製指輪、奈良三彩小壺

「高敞・和順・江華の支石墓群跡」

韓国 文化遺産 2000年登録

巨石遺跡は世界各地に分布するが、支石墓(ドルメン)は北東アジア独特の埋葬文化で、韓国には最大の約3万基が集中する。高敞442基・和順287基・江華60基があわせて文化遺産に登録されており、テーブル形の北方式から碁盤形の南方式までの変遷がわかるのも貴重である。



「高句麗古墳群」

北朝鮮 文化遺産 2004年登録

高句麗・新羅・百済が鼎立した三国時代に、高句麗は現在の中国・北朝鮮の国境付近から韓国の忠清北道近くまでの広大な地域を勢力下においた。高句麗後期の都があったピョンヤン周辺の63基の「高句麗古墳群」に装飾壁画が残され、文化や風俗を生き生きと伝えている。



「宗像・沖ノ島と関連遺産群」

日本/福岡県 2009年暫定リスト記載

福岡県宗像市・福津市に属し、2009年に暫定リストに記載されている。日本と大陸との活発な交流が行なわれた4世紀後半から9世紀に、絶海の孤島・沖ノ島では航海の安全を祈り貴重な奉獻品を捧げて祭祀が続けられた。沖ノ島に残されたそれら遺物は、約8万点が一括で国宝となっている。

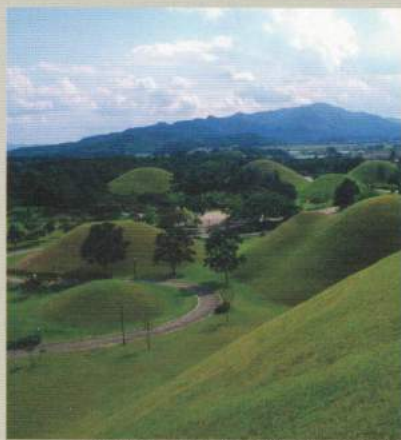


第4回

10月4日(土)
14:00~16:00

「慶州歴史地域」と 古代の日本

新羅といえば、豪華で繊細な黄金の装飾品が思い浮かぶことでしょう。日本各地の遺跡からは新羅の金製品や土器・馬具などと大変似たものが出土し、新羅との交流の様子が伺えます。最新の発掘情報や写真を豊富にお見せしながらお話しします。



慶州市内の大陵苑(新羅王族の古墳群)

第5回

10月18日(土)
14:00~16:00

「開城歴史遺跡地区」と 中世の日本

高麗時代は高麗青磁や仏教芸術など独自の文化が開花した一方、蒙古襲来で全土は大きな被害を受けます。高麗史に元の影響は重要で、「三別抄」の戦いが日本への襲来「文永の役」にも大きく係わりました。この時代のアジア情勢から高麗へ迫ります。



太祖・王健の顕陵

第6回

11月8日(土)
14:00~16:00

「朝鮮王朝の王墓群」と 近世の日本

500年にわたる朝鮮王朝時代の遺産や民俗文化は、今も多く生き続けています。朝鮮王朝末期から大韓民国、日帝時代へと続く近代史は、王朝の遺跡と重なり合っており、大都会ソウルの中に混在しています。今回は、王陵のご紹介と、近世の日韓関係を考えます。



英陵(第4代王・世宗)

「慶州歴史地域」

韓国 文化遺産 2000年登録

慶州は、三国時代新羅から統一新羅時代まで千年を通して都として栄え、「千年の古都」「屋根のない博物館」とも言われる。月城地区(王宮)、大陵苑地区(王族古墳群)、南山地区(仏教美術の宝庫)、皇龍寺地区(仏教国家の中心)、山城地区(防衛施設)の5つのエリアがある。



「開城歴史遺跡地区」

北朝鮮 文化遺産 2013年登録

王宮跡、王陵や寺院跡などが残る。開城は高麗王朝(10~14世紀)の都で、国教ともいべき仏教の影響が強くなっていく歴史や文化を知る上で貴重な遺跡群として、北朝鮮で2件目の世界遺産として認められた。



「朝鮮王朝の王墓群」

韓国 文化遺産 2009年登録

朝鮮王朝時代27代の王と王妃のうち、ソウル市内と近郊の40基の王陵群をいう。儒教的世界観が確立していた朝鮮王朝では祖先を祀り祭祀を行なうことが重要視され、墓は明堂(風水の吉兆地)に造られた。今も子孫による祭礼が続けられており、伝統が生き続ける空間としても評価される。



東京での講座は希少。
東アジア全域の現場の生のお話。
50年にわたる貴重な現場写真は圧巻です!

西谷正氏と 学ぶ



西谷 正 (にしたにただし) 氏

1938年、大阪府高槻市生まれ。京都大学大学院修了。専門は東アジア考古学。奈良国立文化財研究所、福岡県教育委員会、九州大学教授、韓国伝統文化大学外国人招聘教授などを経て、現在、海の道むなかた館長・九州歴史資料館名誉館長・伊都国歴史博物館名誉館長・九州大学名誉教授・名誉博士(東亜大学校・国立公州大学校/韓国)。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録においては専門家委員会の委員長として牽引。

北東アジアの古代に迫る

日本古代史との接点を求めて

毎回13:30~16:00

渤海

4/ 6(土) 渤海の遺跡
6/15(土) 渤海と日本

新羅が半島を統一した後、唐と統一新羅に向き合う緊張の中で、北方の渤海国は日本と交流交易を重ねました。旧国と五京(中京・東京・上京・南京・西京)の宮城や王陵。渤海使と遣渤海使の往来。日本海に面した客館はいずこ。長屋王邸出土の木簡。それらの点を結び、当時のダイナミズムを感じます。



敦煌

8/17(土) 要衝の地・敦煌

シルクロードの要衝・敦煌。その地勢ゆえ、先史時代から清時代まで目まぐるしく繰り返された攻防や遺跡群を学びます。万里の長城・玉門関・陽関・敦煌故城・沙州故城。隅三角持送りなど墳墓の特徴。そして至高の仏教芸術・敦煌莫高窟。敦煌がより深く魅力的になることでしょう。



シルクロード

10/ 5(土) 草原の道
12/14(土) オアシスの道①
2/ 8(土) オアシスの道②

「草原」では黄金のスキタイ文化や、凍土の下から現れ世界を驚かせたバジリク王墓など、北方遊牧民の煌びやかな文化にため息。講師自身の発掘滞在のお話は興味がつきません。「オアシス」では漢・唐の西域政策を。駱駝の印章と日本の金印、西方と東方、当時の日本と連なる話も何と多いことか!



お申込み方法

【HP】 <http://kataranne.com>
【FAX】 次の内容を明記の上、
092-823-1708 宛て

- 「西谷正氏と学ぶ(東京)申し込み」
- 〒・住所・お名前・ふりがな
- 昼間に連絡のとれる電話番号(できれば携帯)
- FAX番号

参加料金のお支払い方法は折り返しご連絡します。
先着順に受け付け、定員に達したら締め切ります。

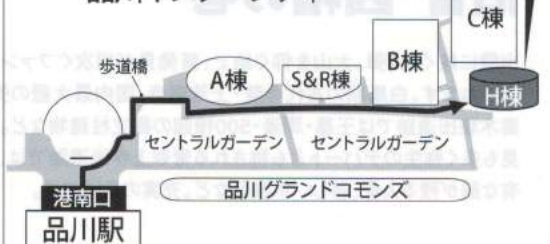
定員 70名

会場 品川インターシティ 会議室
〒108-0075 東京都港区
港南2-15-4 ホール棟(H棟)B1階
<http://sic-hall.com/access/>
JR「品川駅」港南口より徒歩5分
京急「品川駅」港南口より徒歩8分

料金 20,000円(年間チケット)
お2人様 36,000円
残席がある場合は1回4,000円

貸会議室(B1F)

品川インターシティ



九州学
シリーズ

海と向きあって

古の昔から海と向き合って生きてきた先人たち。
そして、今も未来も、海は九州そのものかもしれません。
玄界灘、東シナ海、南方の海の先に何があったのか、
どんな往来が九州を形作ってきたのか、
今年一年は、海のかなたに目を凝らしながら、九州に迫ります。

原則第1土曜、毎回14:00~16:00 テーマ毎に2回連続講座(違う内容)

第1弾 4/1(土)、4/23(日)

—ヤマトとつなぐ海人—

「隼人・熊襲から見える事」

北郷泰道(ほんごう ひろみち)氏(宮崎県教育庁文化財課専門主幹)

「隼人舞」「筑紫舞」などを中心とした舞。海の高墳文化、海に関わる祭祀。遠く海を越えた伝播された文化と海人に迫ります。

第2弾 6/3(土)、7/1(土)

—海に眠る文化遺産—

「鷹島の海底遺跡と世界の海」

佐々木蘭貞(ささき らんてい)氏(九州国立博物館 博物館科学課アシリエフェロー)

世界の海の底には当時を物語る海底遺跡が数多くあります。日本近海の海底遺跡の最新情報から、活発な海外交流を読み解きます。

第3弾 9/2(土)、9/24(日)

—南の海が繋ぐ先—

「薩摩の島々・琉球の島々」

永山修一(ながやま しゅういち)氏(ラ・サール学園教諭、鹿児島大学・鹿児島県立短期大学非常勤講師)

鹿児島、沖縄の島々には、遠く南太平洋までの深い繋がりを物語る遺跡が豊富です。知らないことが多い島々の話から世界が見えてきます。

第4弾 10/7(土)、11/4(土)

—城が海を越えた—

「倭城の特異性と倭城その後」

木島孝之(きじま たかし)氏(九州大学大学院 人間環境学研究院都市建築学部助教)

中世から近世に移る時代、東アジア全体に影響を与えた秀吉の朝鮮出兵に現れた「倭城」から、海を越えた時代背景を読み解きます。

第5弾 12/3(日)、1/6(土)

—玄界灘が開いた新時代—

「青銅器から見る文化の往来」

常松幹雄(つねまつ みきお)氏(福岡市埋蔵文化財課長、九州産業大学国際文化学部非常勤講師)

弥生時代の青銅器を通して、渡来人という一方的な流れではなく逆輸入も起きて相互交流となっていった文化の往来を学びます。

第6弾 2/17(土)、3/3(土)

—中国商人が連れてきたこと—

「九州に息づく大陸仏と石塔」

井形進(いがた すずむ)氏(九州歴史資料館学芸員)

九州には日本でも独特な大陸の信仰芸術が豊富です。海を行き来した商人たちの息づかいや心を感じる仏や石塔を取り上げます。

海上交通の玄界灘ルート、南方ルート、そして海底遺産が注目される水中考古学の世界。様々な分野の第一人者をご登壇下さいます。会場は交通のハブ、JR博多駅。月に一度の楽しみに、どうぞお出かけください!

定員 75名

会場 JR博多シティ会議室3

JR博多駅ビル・アミュプラザ9階

料金 18,000円(税込:年間チケット/全12回)

ご夫婦、ご家族の場合、お2人様32,000円

残席がある場合は1回2,000円(4/1以降の受付)

お申し込みについては裏面をご覧ください



後援:福岡県教育委員会、公益財団法人九州国立博物館振興財団、NPO法人アジア水中考古学研究所、NPO法人国境地域研究センター

改訂版2018.8.1

文化財で楽しむ九州アジア倶楽部2018「学ぶ」

九州学

福岡

—玄海灘ルートを中心に—

沖ノ島の世界遺産登録、最古級の縄文遺跡、常識を覆すような城野遺跡ほか、九州では古代史の大ニュースが続いており目が離せません。筑紫君磐井については、南九州との関連や継体天皇の時代背景など、広い視野から学び直す楽しみな機会。各テーマ最前線で活躍される講師陣によるワクワクする講座を、どうぞお楽しみください。10周年企画として、韓国は百済の地からユンヨンヒョク氏をお招きし、西谷正氏と両先生にお話をいただき、またない贅沢な時間も設けました。

毎回14:00~16:00 (特別編のぞく)

■講師のご紹介 (講座順)



西田 巖氏



本田 道輝氏



西谷 正氏



尹 龍赫氏



北郷 泰道氏



水谷 千秋氏



大塚 恵治氏



松井 和幸氏



井形 進氏



高橋 徹氏

第1弾 4/8(日)、4/28(土)

最古級の縄文文化「東名遺跡」

(1) 東名遺跡の凄さ (2) 南九州の火山灰台地に広がる縄文文化

西田巖氏 (にしだいわお)
(佐賀市教育委員会文化振興課)

本田道輝氏 (ほんだみちてる)
(鹿児島県考古学会会長・前鹿児島大学教授)

北部九州の国内最古の湿地性貝塚(後日、現地見学も実施)。東名の発掘最新情報と鹿児島島の火山灰考古学から九州の縄文文化に迫ります。

—10周年記念特別編—

第2弾 会場:10階大会議室 5/30(水) 14~17時

世界遺産からみる玄界灘

第1部 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

西谷正氏 (にしだにただし)

(海の道むなな 館長・伊都国歴史博物館名誉館長・九州歴史資料館名誉館長・九州大学名誉教授)

第2部

百済歴史地区

尹龍赫氏 (ユンヨンヒョク)

(忠清南道文化財委員・百済文化祭推進委員会理事・前公州大学教授)

第3部

対談

西谷正氏・尹龍赫氏

(コーディネーター/朝日新聞編集委員 中村俊介氏)

第1部は西谷先生から専門家会議委員長の眼を通して、第2部は尹先生から武尊王陵の発掘現場に長く関わられた眼を通して、興味深いお話をお聴きします。両先生から現場のリアルな話や登録への裏話などもお聞きできる貴重な時間です。

この回のみ120名の会場で参加募集をします。
「九州学」年間チケットをお持ちの方は申し込み不要でご参加いただけます。

第3弾 9/1(土)、9/8(土)

北の筑紫君磐井・南の諸県君牛諸井

—宮崎や大隅の巨大古墳を中心に—

北郷泰道氏 (ほんごうひろみち)
(元宮崎県埋蔵文化財センター所長)

九州の北と南の巨大古墳の時代を、ヤマトや南九州との関係、巨大古墳と記紀の関係から読み解きます。大隅半島の巨大前方後円墳の意味とは。

第4弾 10/6(土)、11/3(土)

磐井からみる九州古代史の曲がり角

(1) 継体天皇の時代 (2) 筑紫君磐井

水谷千秋氏 (みづたにちあき)
(塚女子短期大学教授)

大塚恵治氏 (おおつかけいじ)
(八女市商工観光課・元文化財担当)

謎の継体天皇を福井・ヤマト・朝鮮半島と九州を繋ぎ解き明かす水谷先生のお話と、現場の詳細な発掘情報から見る大塚先生のお話から、磐井を見つめます。

リクエスト企画 この回のみ料金別途 12/1(土) 10時30分~12時

城野遺跡の凄さに迫る —赤色の贅、折りの文様—

佐藤浩司氏 (さとうこうじ) (日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会幹事)

第5弾 12/1(土)、1/12(土)

衝撃の響灘

(1) 縄文時代にもあった温暖化 (2) 「企救の国」の青銅器文化

松井和幸氏 (まついかずゆき)
(北九州市立いのちのたび博物館歴史課長)

響灘文化圏であると同時に、ここは瀬戸内文化圏ではと思わせるような遺跡からの情報は興味深い。「銅」という強い力を握った豊前を、読み解きます。

第6弾 2/16(土)、3/2(土)

信仰・芸術・権力のるつぼ国東

(1) 至高の芸術 (2) 宇佐神宮とは何か

井形進氏 (いがたすすむ)
(九州歴史資料館学芸員)

高橋徹氏 (たかはしとる)
(元大分県立歴史博物館長)

国東半島に華開いた神仏習合と今も残る至高の仏像・唐崖仏・石仏群。古代から地域の核となる宇佐神宮は一体何者だったのか。国東の深層に迫ります。

会場は交通のハブ、JR博多駅。駅構内のビルでとても便利です。月に一度の楽しみに、どうぞお出かけください!

定員 70名

会場 JR博多シティ9階会議室3
(JR博多駅ビル・アミュプラザ)

料金 18,000円(年間チケット/特別編含む)
ご夫婦、ご家族の場合、お2名様32,000円
残席がある場合は1回2,000円(特別編除く)

リクエスト企画 会場:上と同じ
料金:1,000円(年間チケットの方は500円)

お申し込みについては裏面をご覧ください



主催:有限会社かたらんね 後援:福岡県教育委員会

かたらんね —歴史文化をもっと身近に もっと楽しく—

<http://kataranne.com>